聖ホセマリアの生涯 - 72

聖ホセマリスは、1960年代のというでは、1960年代のというではたったのはいまれたではいまれるではいまれるではいまれるではいまれるではいまれているではいかではいい。インシャンのではいい。インシャンのはいい。インシャンのはいい。インシャンのはいい。

10月4日にパンプローナに始まって 11月30日バルセローナを発つまでの 約二ヶ月間、スペインの6つの町と ポルトガルの3つの町を回りまし た。各町でオプス・デイのメンバー やその家族や知り合いと会い、時に は修道院の中で祈りと労働に専念す る観想修道会を訪れたりしました。 圧巻は大勢の人たちとの集まりで す。最初の予想を大きく上回る数の 人が押し寄せました。

聖ホセマリアは、何千人の集まりで も「これは家族の集まりです」と 言って「団らん」という言葉を使い ました。まず前もって考えてきた テーマについて短く話すのですが、 「私はお説教をするために来たので はなりません。皆さんの望むテーマ について話しましょう | と言って、 聴衆に質問をするように誘うので す。会衆からは質問が雨あられと 降ってきました。「友達が教会の教 えは間違っていると言うのです が」、「仕事で忙しくて祈り時間が ありません」、「子供が親の言うこ とを聞かないのです」、「神様が私 に何をお望みか、どうやったらわか るのですか | などなど、日々の生活 で直面する様々な問題に及びます。 それらの質問にパドレは丁寧に答え ていき、常に神への信仰と経験と常

識から生まれる見方を伝えようとし ました。

このイベリア半島の旅行で、聖ホセマリアは一日平均して、3つか4つの集まりをもち、そのうちは何千人もが参加したもので、合計で15万人以上がこのカテケージスを聴きました。この集まりの多くが映像に収められています。

尾崎明夫

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/sei-josemaria-72/ (2025/11/26)